

胃癌根治術後サーベイランスにおける血清 CEA 値測定の有用性

三上 公治 前川 隆文 山下 裕一
山内 靖 星野誠一郎 篠原 徹雄
乗富 智明 白日 高歩

福岡大学第二外科

要旨：血清 CEA 測定が再発胃癌の早期診断に有用であるかについて検討した。対象：1997年1月から2004年12月までの8年間に、初発胃癌に対し根治胃切除術を施行した症例は380例であった。このうち、CEA 測定および各種画像検査を定期的に行い、再発が確認された45例を対象とした。結果：無再発症例における CEA の変動は、術後3ヶ月に測定した値と比較し、 1.5 ± 0.3 倍で経過した。CEA 値が術後3ヶ月の CEA 値に対し2.0倍になった症例あるいは基準値を越えた症例を陽性とする、再発例における CEA 陽性率は51.1%であった。分化型腺癌に限ると陽性率は66.7%であった。CEA 陽性が、画像診断より早いか同時であった症例は、分化型腺癌では15例中10例、血行性転移では15例中11例と高率であった。画像に先行した期間（リードタイム）は全体では平均1.6ヶ月で、転移形式別に検討すると血行性転移、腹膜播種、リンパ節転移でそれぞれ平均1.0ヶ月、2.3ヶ月、3.0ヶ月先行したが、局所再発では CEA 陽性化と画像発見時期は同時であった。結論：胃癌再発例の検討で、血清 CEA 値測定は早期再発発見に寄与していた。血清 CEA 測定は、胃癌術後のサーベイランスに重要で欠かせない検査と考える。

キーワード：胃癌，再発，サーベイランス，CEA